

平成 26 年度第 1 回屋久島山岳部利用対策協議会 概要

日時：平成 26 年 7 月 25 日（金）13:30～15:30

場所：鹿児島県熊毛支庁屋久島事務所第 3 会議室

【協議事項】

- 1 屋久島山岳部保全募金について
- 2 避難小屋（鹿之沢及び石塚）への携帯トイレブースの併設について
- 3 その他

（配布資料）

- ・ 本体資料：「会次第」，「出席者名簿」，「屋久島山岳部利用対策協議会規約及び委員名簿」（P 1～2），「平成 26 年度事業計画」（P 3），「屋久島山岳部保全募金について」（P 4～5），「避難小屋（鹿之沢及び石塚）における携帯トイレブース等の併設にかかる取り決め事項（案）」（P 7～8）
- ・ 参考資料 1：「屋久島山岳部保全募金の収支について」，「荒川登山口（業務員分）募金状況」，「山岳トイレ施設一覧」，「携帯トイレの導入に至る経緯等」，「平成 26 年度縄文杉ルートにおける携帯トイレブース追加設置にかかる取り決め事項」，「携帯トイレブースについて」
- ・ 参考資料 2：「屋久島山岳部保全募金の収受率向上対策について」
- ・ 参考資料 3：「屋久島山岳部保全募金の支出削減対策について」
- ・ 参考資料 4：「平成 25 年度第 2 回山岳部利用対策協議会（3/25）の概要」
- ・ 環境省配布資料：「新高塚小屋の自己処理型トイレの業者による現地確認の結果について」，「携帯トイレの使用に関する資料」

1 屋久島山岳部保全募金について【県自然保護課】

資料 P 4～5 に基づき、平成 25 年度の募金の収支決算及び今後の募金の見込みについて説明。

(1) 平成 25 年度の募金の収支決算について

平成 25 年度募金総額 21,091,836 円
支出経費 19,045,264 円（し尿搬出経費：15,861,486 円＋その他経費：3,183,778 円）
単年度収支 2,046,572 円
前年度繰越額 3,936,221 円
H26 年 3 月末残額 5,982,793 円

(2) 今後の募金の見込みについて

昨年度まで人件費の一部を町の緊急雇用の事業で充当できたが、今年度から募金で人件費を支出する必要があり、支出経費が 300 万円増加する。その結果、単年度の収支は 400 万円ほどの赤字となり、年度末の残額は約 200 万円となる見込み。

2 避難小屋（鹿之沢及び石塚）への携帯トイレブースの併設について【事務局】

資料 P 6～7 に基づき、「避難小屋（鹿之沢及び石塚）への携帯トイレブース等の併設にかかる取り決め事項（案）」を説明し、関係機関の了承が得られた。

3 その他（主な意見）

(1) 山岳部保全募金と車両運行対策協議会の協力金との一本化について

（観光協会）

- ・ 登山バスの出発地点の屋久杉自然館のところに、登山バスの協力金と募金を一緒に徴収する人を配置すれば、荒川登山口で募金を徴収する業務員もいらなくなり、人員のコストも下がり、収支も上がるのではないかと。

（屋久島環境文化財団）

- ・ 登山バスの協力金と募金を一本化し、募金を徴収できるような仕組みが必要ではないかと。一本化する場合、登山バスの金額が上がるなど、いろいろな問題もあるが、荒川登山口の人件費が浮くので、新たに淀川登山口に人員を配置するのに回すことができるのではないかと。

（町商工観光課）

- ・ 車両運行対策協議会は、山岳部利用対策協議会の部会であったものを落ち着くまでということ、独立させて切り離した経緯がある。内部ではもうそろそろ本体の山岳部利用対策協議会に帰してもいいぐらい安定してきているのではないかと話もしているので、一本化する方針が決まれば、単純にできると思う。
- ・ 現在の登山バスの協力金と募金を一本化した場合、白谷雲水峡から縄文杉登山をする人や淀川登山口から登る人からは徴収することができないので、そこに集中していくのではないかと問題があるので、そのことも整理する必要がある。

(2) 携帯トイレの普及について

（レンタカー協会）

- ・ もっと、携帯トイレを推進するための議論やPRをすべき。今までは観光協会が携帯トイレの仕入れを行い、その代金を立て替えていたが、今年からは販売店が携帯トイレを仕入れるという前払方式になった。これでは携帯トイレの普及にはつながらない。観光協会の予算内容を見ると、携帯トイレ代金を立て替えるのは大変なのはわかるので、もっと携帯トイレを普及させるために、携帯トイレの仕入れの代金を募金や町などで立て替えることはできないのか。

（会長）

- ・ 潤沢に募金の資金があれば、そういうこともできるが、資金的な財源を作れないか考えていきたい。

（レンタカー協会）

- ・ 極端な話として、「屋久島の山に登るのには、携帯トイレを持っていかないと登れない」というPRをする必要があるのではないかと。また、山中泊する人のために、淀川小屋など宿泊するところに、携帯トイレの回収ボックスを設置したらどうか。

（環境省）

- ・ 屋久島では汲み取り式トイレに携帯トイレブースを併設するというやり方をしているので、既存の汲み取り式トイレを閉鎖するという事は、なかなかできていない。そこはいろいろ協議しながら、残すトイレ、廃止するトイレというのを見極めながらやっていくということと、行政としての努力もしていくが、観光協会も公益社団法人として携帯トイレの普及啓発に努力しているので、民間と行政で連携しながら、アピールしていくしかない。

（屋久島森林生態系保全センター）

- ・ すぐに汲み取り式トイレを全廃するのは難しい。段階的に携帯トイレに移行していく、最後には完全に携帯トイレに移行するということが必要。

(3) 山岳部保全募金箱の工夫等について

(屋久島森林生態系保全センター)

- ・ 前回の実務担当者会議でガイド部会も言っていたが、募金したくても募金箱がどこにあるのかわからないというお客さんも結構いるということだったので、まずは、募金箱を目立つところに置くとか、もっと荒川登山口の入口を狭めて、そこからしか入れないところに募金箱を置くとか、汲み取り式トイレに、できるだけ携帯トイレをご使用くださいとかいうポスターを貼り付けるとか、とりあえずはできることから、取り組んでみたらどうか。

(事務局)

- ・ 例えば淀川小屋のトイレに募金箱の場所等がわかるポスターを掲示するなど、できることはやろうということで、町の方で対応してもらっているところもある。もちろん今後もそういったことは、実務担当者会議で検討して、皆さんの協力を得ながらやっていきたいと考えている。

(4) 故障している新高塚小屋のトイレについて

(環境省)

- ・ 今年の5月16日に、新高塚小屋に導入したTSSというトイレの関連会社の大成工業に現地確認をしてもらった。(確認結果における、現状及び機能不全の原因、改善策の提案については、資料のとおり)
- ・ ある程度環境省として方針が決まり次第、皆さんと一緒に協議したい。当初の整備に当たってはかなり急いで議論されたと思うところがあるので、今回はしっかり検討して、使えるトイレになるように、皆さんで議論していきたい。

(観光協会)

- ・ 1年も放置していて、いざ、業者に現地確認をお願いしたら、全部ダメということなので、今度は深刻にもう少し検討しますということであるが、観光協会のガイドはそれでは納得しない。

(会長)

- ・ 山岳部利用対策協議会としては一日も早く撤去してほしいと環境省九州地方環境事務所に報告してほしい。

(5) 携帯トイレブース及び回収ボックスへの掲示について

(環境省)

- ・ 携帯トイレを使った後に、携帯トイレブースの横に使った携帯トイレを置いていくというパターンが見受けられるので、「使用済み携帯トイレを放置しないで」と書いたものをラミネートして携帯トイレブースに掲示したい。
- ・ 回収ボックスは携帯トイレだけの回収ボックスになっているが、弁当ガラとかペットボトルとかがかなり入れられてしまっている現状があるので、「弁当箱やペットボトルなどのゴミは捨てない」と書いたものを回収ボックスに掲示したい。

(6) 山岳部の諸課題（有人の山小屋の整備等）について

(会長)

- ・ 募金や携帯トイレだけではなく、屋久島の山岳部における諸課題（有人の山小屋の整備、小杉谷におけるゲート機能をもった施設の整備、小水力によるトイレの電源確保対策、遭難対策等）について、既存の会議の整理も含めて議論する必要があると思っているので、いろいろと実務担当者会議で検討してほしい。